



学校だより

2019年4月26日

No.1

射水市立堀岡小学校
校長 佐藤 静香

平成31年度スタート 元気な なでしこの仲間たち



春陽の候 保護者の皆様、地域の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、この伝統ある堀岡小学校の第三十七代校長として赴任してまいりました佐藤静香と申します。若輩ではございますが、堀岡小学校の子供たちのために精一杯努めさせていただきます。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、4月4日(木)に始業式、また5日(金)には多数のご来賓の方々と保護者の皆様に見守っていただき、入学式を行いました。春らんまん、正面玄関前の桜が満開の中で新1年生26名を迎え、全校児童143名で、平成31年度(令和元年度)の堀岡小学校がスタートしました。

始業式では、子供たちに、「命」「人」「一生懸命」の三つのことを大切にする約束をしました。そして、この一年、「なりたい自分に向けて挑戦し、夢や希望をかなえていきましょう」と呼びかけました。本年度、この三つのことを大切にする中で、教職員一同、子供たちに寄り添い、励まし、共に歩みながら「みんなの笑顔が輝く」堀岡小学校を目指していきたいと考えています。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

入学式

4月5日(金)、26名のかわいい新入生を迎えました。

多くの来賓の方々、保護者の皆様、上級生の間を入场する姿は、はにかみながらも誇らしさを感じさせるものがありました。新入生への激励のお言葉にしっかり耳を傾ける様子も頼もしく思いました。

在校生代表として、6年生の朽木輪子さんが歓迎の言葉を述べました。式後のアトラクションとして2年生が「世界中の子供たちが」の替え歌で「世界中の1年生が」を元気よく歌いました。1年生はきっと学校が楽しいところだと思ってくれたとことでしょう。

上級生や教室の友達と仲よく学校生活を送り、健やかに成長してほしいと願っています。



教職員の異動の紹介

30年度末で3名の教職員の転退職がありました。
昨年度の3月28日(木)にお別れの式を行いました。
児童の代表が感謝の言葉を伝え、花束を贈呈しました。
転退職された方は次の通りです。



櫻野栄子 校長	(太閤山小学校へ)	若林 祥子	(下村小学校へ)
村井 由希	(牧野小学校へ)	栗林 道子	
湊 博美	(退職)		



そして、4月4日(木)には、新校長の着任式、転入教職員の新任式を行いました。新任者の挨拶からは、堀岡小学校の子供たちとの出会いを大切に、チーム堀岡小として子供たちの成長を支えていこうという熱意が伝わってきました。よろしくお願ひいたします。

佐藤 静香	(さとう しずか)	校長	西部教育事務所より
島 百合子	(しま ゆりこ)	教諭	東明小学校より
大井 珠子	(おおい たまこ)	教諭	大門小学校より
征矢 孝子	(そや たかこ)	教諭	塚原小学校と兼務
太田 朋子	(おおた ともこ)	用務	芳野中学校より
桶谷 香織	(おけたに かおり)	スクールカウンセラー	射北中学校と兼務



学習参観・PTA総会・学年懇談会

4月20日(土)に学習参観を行いましたところ、多くのご参観をいただき、ありがとうございました。保護者の方の姿を見つけ、にっこりと微笑む子供の様子が何度も目に留まりました。皆様の温かい眼差しが、子供たちの力になっていることの何よりの証拠かと思われまふ。



学習参観に引き続いてのPTA総会にも多くのご出席をいただき、こちらでもみなさんの学校に対する温かな思い、そして大きな期待を感じました。学級懇談会での貴重なご意見もしっかり受け止め、皆様との連携を深めていきたいと考えています。

今後もお気付きの点などありましたら、遠慮なく担任や学校へお知らせください。

《堀岡小学校の桜》

今年は例年になく桜の花が長く咲いたといわれます。この堀岡小学校でも、始業式、入学式に満開を迎えた正面玄関の桜並木に始まり、たくさんの桜が次々に春を彩ってくれました。今は、枝垂れ桜が一對、ゆっくりと葉桜に移りながら、玄関並木の入り口で子供たちを見守ってくれています。

先日、地域の方から、玄関前の桜並木は、桜まつりでも有名な長野県の高遠城の桜と同じ、タカトオコヒガンザクラであるとお聞きしました。また、地域の方が入学式に間に合うようにと、少し早咲きの桜をわざわざご用意くださったとうかがいがい、わが町の小学校として大切に思っているお気持ちをありがたく感じました。

子供たちも桜のように一人一人個性があり、咲く時期も花の色や大きさも、そして成長の様子もさまざまです。行く春を惜しむように精一杯咲く桜を見ながら、どの子供も胸をはって自分の花を咲かせていってほしいと願わずにはいられません